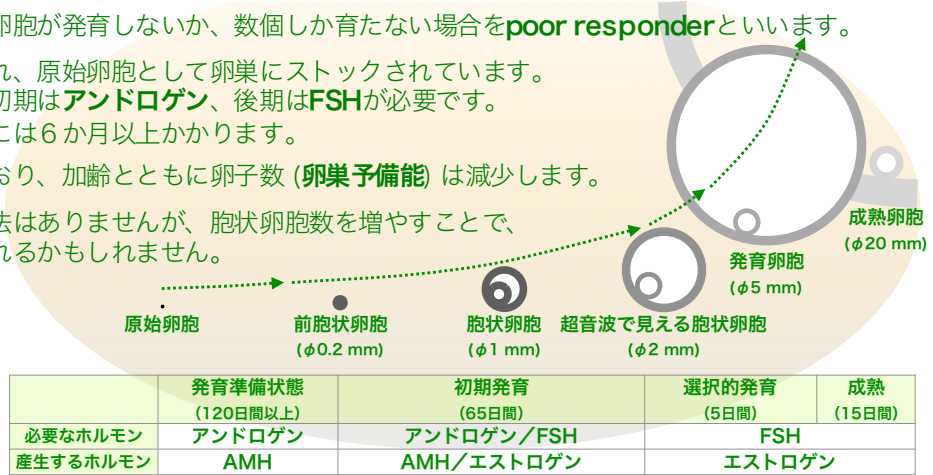


## 卵巣の反応が低下している場合 (poor responder) の刺激法

- 卵巣刺激を行っても卵胞が発育しないか、数個しか育たない場合を**poor responder**といいます。
- 卵子は胎児期に作られ、原始卵胞として卵巣にストックされています。原始卵胞の発育には初期は**アンドロゲン**、後期は**FSH**が必要です。卵胞が成熟するまでには6か月以上かかります。
- 卵胞は常に発育しており、加齢とともに卵子数 (**卵巣予備能**) は減少します。
- 卵子の数を増やす方法はありませんが、胞状卵胞数を増やすことで、卵巣の反応を高められるかもしれません。



### □ 卵巣刺激を始める前に少量のエストロゲンを投与する (E-priming法)

- ・ 卵巣予備能が低下するとFSHが増加して、常に卵巣を刺激している状態になります。少量のエストロゲンを投与すると卵胞の発育が一時的に抑制され、胞状卵胞が増える可能性があります。
- ・ 前周期の高温相3～5日目から卵巣刺激開始までエストロゲン製剤 (**エストラーナ**を1枚ずつ隔日貼付) を使います。月経2～3日目から卵巣刺激を開始します。



### □ 卵巣刺激を始める前にGnRHアンタゴニストを投与する (Delayed start法)

- ・ 高FSH血症が続くと卵胞のFSHに対する反応性が低下する可能性があります。GnRHアンタゴニストによりFSHが正常化し、卵巣の反応性の改善を期待できます。
- ・ E-priming法に引き続いて、月経2～3日目から7日間GnRHアゴニスト (**ガニレスト0.25mg**) を投与し、その後には卵巣刺激を開始します。



### □ 採卵の数日後に卵巣刺激を再開する (DuoStim法)

- ・ 卵胞の選択的発育は排卵後に始まります。採卵4～5日後に刺激を再開すると1周期に2回採卵できます。
- ・ 子宮内膜の周期は卵巣のホルモン周期と同期しませんので、受精卵はすべて凍結保存することになります。
- ・ 卵巣刺激はアンタゴニスト法で行い、通常はhCGではなくGnRHアゴニスト点鼻薬で卵胞を成熟させます。



### □ 卵巣刺激を始める前にアンドロゲン (男性ホルモン) を投与する

- ・ 卵巣予備能が低下すると、周期によっては卵巣刺激に反応できる胞状卵胞がないことがあります。卵胞の初期発育に必要なアンドロゲンを投与して、胞状卵胞の増加を期待します。
- 1) **DHEA**：弱い副腎性アンドロゲンのサプリメントです。卵巣刺激開始前に2～3か月間服用します。
  - 2) **テストステロンジェル**：男性用のアンドロゲン補充ジェルです。ロング法開始時から**セルノスジェル**50mg包の4分の1量を20日間を投与した後に卵巣刺激を開始します。



※ どの方法も、卵胞数を増やす効果が必ず得られるわけではありません。また、閉経期以降は効果がありません。  
 ※ 卵巣予備能が保たれ卵巣刺激に対する反応が良好な方には必要のない治療です。